

生み育て住み続けられる地域にするため

# 北海道の地域医療を守る

## 緊急集会

「町から病院がなくなる」「出産できない」「入院できない」「救急医療体制がない」・・・いま、地域医療が深刻な状況が広がっています。その地域で、産み育て住み続けられる地域にするためには、医療提供体制の充実が求められています。

安倍政権は、医療費「適正化」のため、入院ベッドを大幅に削減しようとしています。現在、検討中の北海道地域医療構想でも、大幅な削減案が提案されています。

地域医療の現状を交流しあい、地域医療を守るための集会を行います。是非、お集まり下さい。

**日時** 2015年11月16日(月) 18:30~

**場所** 北海道自治労会館 4階ホール

**内容** 地域からの報告  
議員・団体からのあいさつ 他



主催 地域医療と公立病院を守る北海道連絡会

事務局 北海道民主医療機関連合会（道民医連） ☎011-758-4585

# 私たちの町から病院が消えていく？

道内各地の医療提供体制をめぐる声を紹介します

## 出産できない

- 隣町の病院で、産婦人科医3人のうち2人が退職。出産ができなくなる。出産ができるのは北見市か名寄市。車で1時間以上かかる。地域では暮らしていけないという声が切実になっている（遠紋圏域）
- 自治体病院は産科も標榜しているが、近くにある病院で出産できない状況となるため、道に対して出産できる体制を求めて4万人以上の署名が寄せられた（後志圏域）
- 町内で出産できない（十勝圏域）
- 病院には外来しかなく、出産できない（根室圏域）

## 入院できない 救急体制がない

- 町内に入院ベッドがない（十勝圏域）
- 救急車は入院できる町の病院まで搬送してくれるが、ベッドの空きがなく、行っても帰ってくる手段がない（遠紋圏域）
- 町の病院に入院ベッドがなくなり、夜間救急の場合、他の自治体病院へ救急車で搬送（北空知圏域）
- 町は公的病院の建て替えに14億円を出したが、病床を休止し精神病床を閉鎖した。搬送が遅れ命を落とす患者もいる（日高圏域）
- 長期間かけて自治体病院を新しく建て替えたが、病床数は半分以下に（後志圏域）
- 脳卒中の手術ができる病院が近くにない。救急車で長時間かけて搬送するしかない（日高圏域）
- 経営が厳しく、100床規模の療養病院が閉鎖する。入院先がなくなる（日高圏域）

## 自治体病院がなくなる

- 医師確保が大変で自治体病院の経営も厳しい。赤字なのに続けていいのかとの意見もある（十勝圏域）
- 国保病院が、赤字が膨らみ11年前に廃止された。低所得者の通院交通費負担の問題もある（十勝圏域）
- 町立病院が赤字。いつまで一般会計から持ち出すのかと意見が出されている。病床稼働率は48%。一般会計から2億円繰り入れている。診療所にしてはという意見もある（南空知圏域）
- 公立病院が赤字になり、必要ないという意見も多く出てくる。稼働率が下がってきている。医師不足のため、手術ができない（南空知圏域）
- 国保病院→厚生病院→厚生クリニック→町立診療所と変遷。医師不足により、指定管理者制度になった（遠紋圏域）
- 病院から診療所になると、救急指定が受けられなくなる。その後が心配（日高圏域）
- 町村合併で自治体病院が診療所になった（釧路圏域）

## 医師・看護師が不足している

- 看護師不足で診療所のベッドを休床にしている（日高圏域）
- 医系学生のための奨学金があるが、医学生は利用していない（日高圏域）